

江戸川区のスーパー堤防建設計画は矛盾だらけ

スーパー堤防・街づくりを考える会

もし江戸川の堤防が決壊したら……

概ね200年に一回程度起こる大雨が降ったことにより、江戸川が氾濫した場合に想定される浸水の状況をシミュレーションにより求めたものです。

浸水想定区域図

利根川水系江戸川 浸水想定区域図

凡例

- 浸水した場合に想定される水深（ランク別）
- 0.5m未満の区域
- 0.5～1.0m未満の区域
- 1.0～1.5m未満の区域
- 1.5～2.0m未満の区域
- 2.0m以上の区域
- 市区町村境
- 浸水想定区域の指定の對象となる洪水予報河川

※地図をクリックすると、拡大表示します。

1 越水しても壊れません!

ふつうの堤防に比べ、スーパー堤防はあふれた水が斜面をゆるやかに流れる構造なので、堤防を越える洪水でも壊れることはなく安全です。

●ふつうの堤防

●スーパー堤防



2 浸透しても壊れません!

ふつうの堤防に比べ、スーパー堤防は幅が広い堤防なので、洪水による水の浸透が長時間続いても、崩れることはなく安全です。

●ふつうの堤防

●スーパー堤防

3 地震に強い堤防です!

スーパー堤防は、必要に応じて軟弱地盤を改良して耐震対策を強化しているので、地震による液状化やすべりにも強く、安心です。

●ふつうの堤防

●スーパー堤防

スーパー堤防の全景

クリックすると別ウィンドウに拡大表示されます。

快適なまちづくりと一体となって進められる新しいかたちの公共事業です。

土地の買収をしなくて進める事業です。

用地の買収を行わずに進める事業なので、地権者は土地を手放す必要がなく、土地の権利のままです。スーパー堤防完成後は元どおり利用できます。

河川法（第26条）建設物等の新築・改築

基礎杭・電柱・その他種々の工作物、地表から深さ1m以内の地下における新築または改築は許可を必要としません。

高規格堤防特別区域

電柱等種々のものの設置

家の新築・建て替え

橋などの工作物の設置

掘削しない新築物の設置

河川法（第27条）掘削または切土

掘削または切土は、掘削または切土の深さが1.5m以内の土地の範囲内で十分に認められる場合は許可を必要としません。

高規格堤防特別区域

掘削 掘土 工作物の設置のための掘削

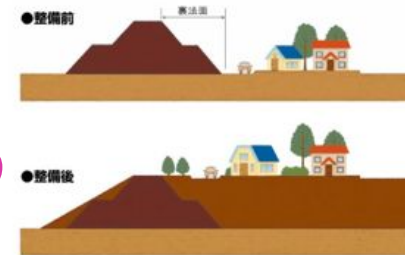
建設発生土を有効に利用します。

スーパー堤防の盛土は、公共事業による建設工事などで出た建設発生土を有効に再利用しているため、資源循環型社会にも貢献しています。



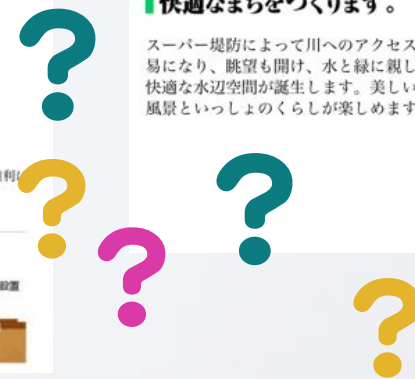
土地を有効に利用することができます。

これまで、堤防のみに利用してきた裏法面の土地を公園や道路などの公共スペースとして利用できます。また、災害時の緊急避難スペースや防災拠点の確保もできます。



水と緑に親しめる快適なまちをつくります。

スーパー堤防によって川へのアクセスが容易になり、眺望も開け、水と緑に親しめる快適な水辺空間が誕生します。美しい川の風景といっしょのくらしが楽しめます。



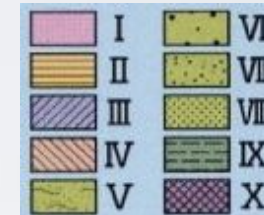
江戸川区洪水ハザードマップ

江戸川・利根川・荒川がはん濫した場合



敢えて「北小岩」につくる理由がない

- ★洪水流が襲わない滑走斜面側
- ★ハザードマップが安全と表現
- ★自然堤防上のしっかりした地盤
- ★既存の堤防は区内でも最高級
- ★これまで破堤したことがない



I：台地 II：千葉第1段丘 III：千葉第2段丘 IV：沖積段丘 V：砂丘
VI：砂州 VII：自然堤防・浜堤 VIII：沖積平野 IX：干拓地 X：埋立地





「平井7丁目」も 選択ミス！



- ★昔の流路上の堤防は弱いのに、そこにつくらず、そのとなりにスーパー堤防をつくる不思議。
- ★垂直な裏法面しか作れないところをなぜ選ぶ？
- ★かえって危険！川は昔の流路を襲うことが多い。
- ★「汚染土壌」が出てきてあわてて工事内容を変更。わざわざお金がかかるところを選んだ責任は？

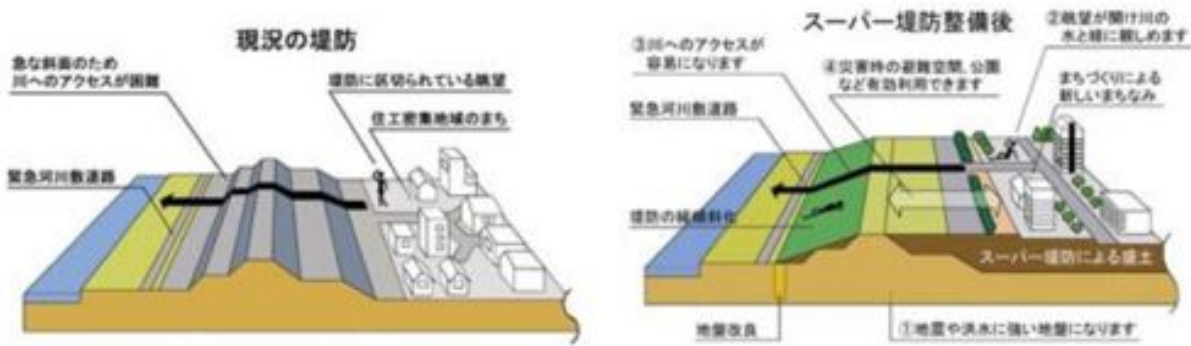
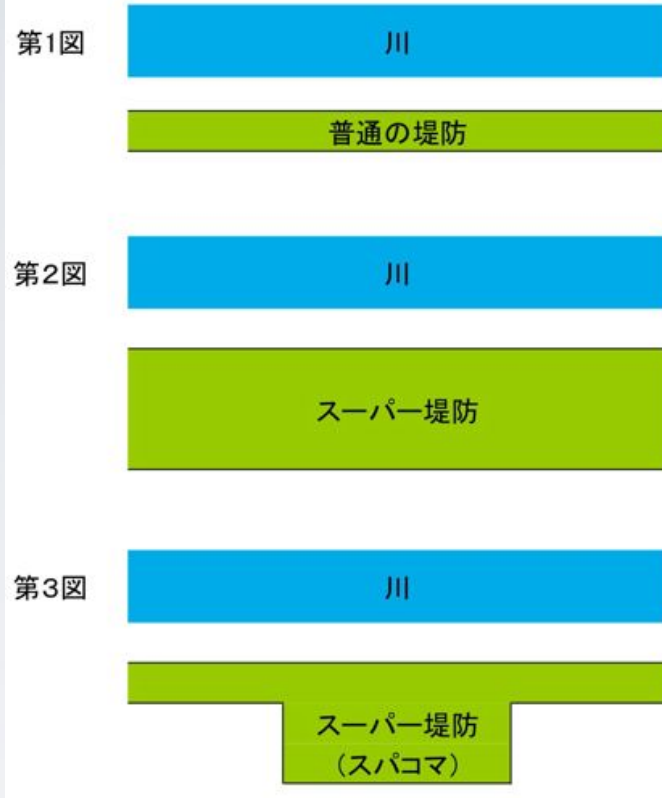
スーパー堤防なら極めて緩い裏法面が必要



つくられたのは
垂直な裏法面



実際につくられるのはスーパー堤防ではなく スパコマ (細切れのスーパー堤防)



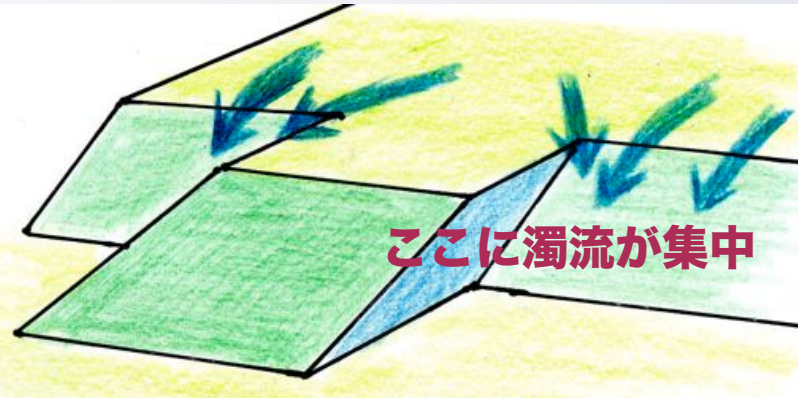
上の図は江戸川区のホームページからのもですが、右がスーパー堤防です。スーパー堤防とはご存知のとおり、高さが3に対して堤防の幅が100以上の幅広の高規格堤防のことです。さて問題は「スパコマ」もこれくらいの長さで図にすればスーパー堤防と何ら変わりがなくなることです。しかしスーパー堤防とスパコマは別物です。

スパコマの脇があぶない

第1図と第2図の連続堤と異なり、第3図のように一部だけが強化されるスパコマでは、洪水時の越流がスパコマをよけて流れるためにスパコマの脇に流れが集中します。スパコマが連続した堤防になる見通しもないのにつくるのは問題です。



実際のスパコマ
市川パークシティ



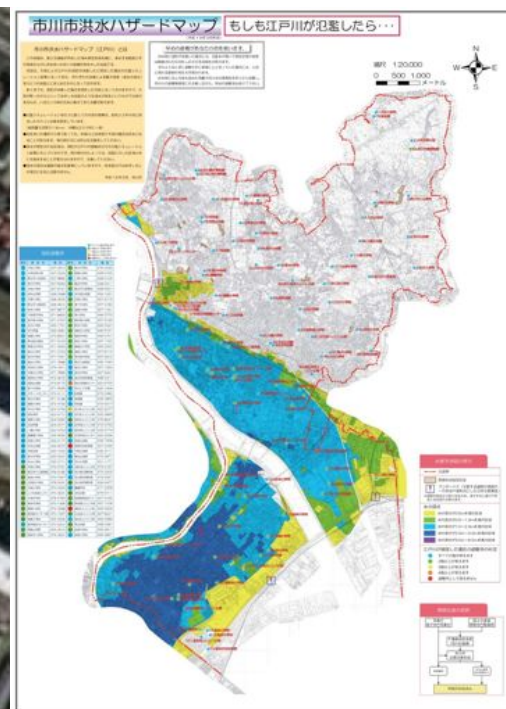
もしも江戸川が氾濫したら

(市川市洪水ハザードマップ2007年3月作成版より作成)

江戸川

水深1.0~2.0メートルの区域

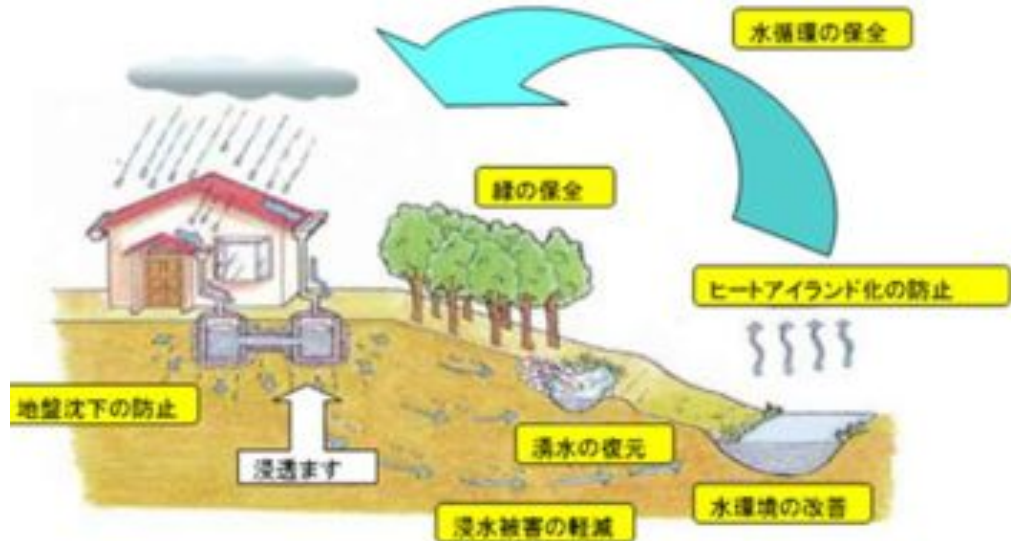
水深2.0~3.0メートルの区域



スパコマ

特別な窪地もない平坦な市街地にもかかわらず、
スパコマの脇になぜか周囲よりも
水深が1メートル多い部分 (濃い青) が出現





- Q2 雨水を有効利用する場合、酸性雨の影響はありませんか
 A2 酸性雨は大気中の窒素酸化物やイオウ酸化物が雨水に溶け込んだもので、そのほとんどは初期降雨に含まれます。初期降雨のみをカットする製品も出ていますが、雨水全体としては薄められ弱酸性からアルカリ性になるので、植木の散水などには全く問題ありません。むしろ消毒用の塩素が多量に含まれる水道水よりも、環境にやさしい水だといえます。
- Q3 市川市でも雨水の有効利用に取り組んでいますか
 A3 屋根に降った雨水を貯めて水洗トイレなどに有効利用する例は、東京ドーム（1000トン）や国技館（1000トン）などが有名ですが、市川市でも、たとえば七中の複合施設では287トンの雨水を地下タンクに貯めてトイレなどに利用しています。



また、小中学校をはじめ、公民館などの公共施設には小型の雨水タンクを合計で約50基設置しています。

雨水小型貯留施設の公共施設設置箇所一覧

お隣の市川市 こんなに違う内水対策

